

平成17年10月吉日

各位

財団法人 日本科学技術振興財団  
会長 有馬朗人

### 科学技術理解増進活動、理系人材の育成・確保活動へのご参加のお願い

拝啓 時下ますますご清栄のことお喜び申し上げます。

平素は格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、グローバルな大競争時代にあって、資源の乏しい我が国が豊かな生活を維持し、今後も発展し、国際的貢献を続けていくことを可能にするためには、「知」を創造し、活用できる人材の育成・確保が喫緊の課題となっています。

一方、我が国の急速な少子高齢化社会の到来が現実のものとなり、理系人材の決定的な量的不足が迫ってきています。この環境の中で、我が国の児童生徒の理科嫌い、勉強嫌いが増えることは、十年後、二十年後の科学技術を担う優秀な人材の育成・確保に支障をきたし、国全体の技術力の低下、ひいては、国際競争力の低下をもたらす、科学技術創造立国の基盤を揺るがすことが懸念される状況にあります。また、我が国の大人の科学技術に関する理解に関してはその低下が顕在化しています。

こうした状況の中で、科学技術理解増進活動と、理系人材育成・確保、中でも人材の基盤作りの強化などの活動を展開することの必要性が今日ほど高まってきているときはないと考えられます。

このため理系人材の基盤作りの強化に資する活動について、産業界、研究開発機関から34の会社・団体のご参加をいただき、財団の方向性と果たすべき役割について作業部会を立ち上げ、討議を重ね、報告書にまとめました。

この報告書を踏まえて、明日の産業技術を担う人材の育成につながる青少年を含めた市民の科学技術、産業技術への理解・関心を惹きつける活動を積極的に展開するためにまた、中央館として全国の科学館の運営機能の強化に資するセンター機能を強化するとともに全国的な科学技術、産業技術理解増進活動（アウトリーチ推進活動）を展開するためには、産業界、研究開発機関、学会、教育関係者などにご参加いただき、関係者、関係機関が一体となった活動が不可欠と考えます。

この一体となった活動により、理系人材の基盤作りの強化につなげ、わが国の産業の発展に寄与し、科学技術創造立国につなげる所存ですので、皆様方には是非ご理解とご支援、ご協力をお願い申し上げます。

なお、ご支援、ご協力に対しては企業、団体名を大きく掲げ、少しでも皆様のお役に立てるよう尽力する所存です。

敬具